

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成31年1月31日(2019.1.31)

【公表番号】特表2018-536474(P2018-536474A)

【公表日】平成30年12月13日(2018.12.13)

【年通号数】公開・登録公報2018-048

【出願番号】特願2018-522957(P2018-522957)

【国際特許分類】

A 6 1 M 25/14 (2006.01)

A 6 1 M 25/10 (2013.01)

A 6 1 M 25/00 (2006.01)

A 6 1 M 25/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 25/14 5 0 0

A 6 1 M 25/10 5 2 0

A 6 1 M 25/10 5 1 0

A 6 1 M 25/00 5 4 2

A 6 1 M 25/00 5 3 0

A 6 1 M 25/09

【手続補正書】

【提出日】平成30年11月6日(2018.11.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

流体の流れを移送するための管において医療処置を実施するための装置であって、
膨張状態にあるときに前記管内の前記流体の流れを許容するための膨張可能な灌流バルーンと、

前記流体の流れを制御するための膨張可能なバルブと、

前記灌流バルーンを支持するためのカテーテルシャフトであって、前記膨張可能なバルブを支持するための支持体を受け入れるための少なくとも 1 つの内腔を有するカテーテルシャフトと

を備え、

膨張されたときの前記膨張可能なバルブは、流体の流れを実質的に塞ぐ第 1 の位置と、流体の流れを許容する第 2 の位置と、の間に前記支持体に対して移動可能である装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の装置であって、

前記膨張可能なバルブは、前記灌流バルーンの内部通路に関連付けられたバルーンを備える

装置。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の装置であって、

前記バルーンは、略球状のバルーンを備える

装置。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の装置であって、
前記支持体は、前記膨張可能なバルブのための膨張内腔を備える装置。

【請求項 5】

流体の流れを移送するための管において医療処置を実施するのに使用するための装置であって、

前記管内の前記流体の流れを受け入れるための開口に関連付けられた通路を有する灌流バルーンと、

前記流体の流れを制御するための、前記通路内に選択的に位置決め可能なバルブとを備え、

前記バルブは、前記通路への流体の流れを実質的に塞ぐ第 1 の位置と、前記通路への流体の流れを許容する第 2 の位置と、の間で移動可能であり、

前記灌流バルーンは、前記第 1 の位置において前記バルブを保持するために、近位端に保持部を備える

装置。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の装置であって、

前記バルブは、前記灌流バルーンの内部通路内に位置決めされる膨張可能なバルーンを備える

装置。

【請求項 7】

請求項 5 に記載の装置であって、

前記膨張可能なバルーンは、略球状のバルーンを備える

装置。

【請求項 8】

請求項 5 に記載の装置であって、

さらに、前記灌流バルーンを支持するためのカテーテルシャフトを備え、

前記カテーテルシャフトは、前記膨張可能なバルブを支持するための支持体を受け入れるための少なくとも 1 つの内腔を備える

装置。

【請求項 9】

請求項 1 ないし請求項 8 のいずれか一項に記載の装置であって、

前記灌流バルーンは、該灌流バルーンの単一の断面において複数のセルを備える

装置。

【請求項 10】

請求項 9 に記載の装置であって、

各セルは、前記灌流バルーンを支持するカテーテルシャフトまで延在するネック部を備え、

前記ネック部は、前記膨張可能なバルブのための保持部と一緒に形成する

装置。

【請求項 11】

請求項 5 に記載の装置であって、

前記保持部は、前記灌流バルーンの近位端部に位置する

装置。

【請求項 12】

流体の流れを移送するための管において医療処置を実施するのに使用するための装置であって、

膨張状態において流体を移送するための通路を有する第 1 の膨張可能なバルーンと、

前記通路を通る前記流体の流れを制御するための第 2 の膨張可能なバルーンと

を備え、

膨張されたときの前記第 2 の膨張可能なバルーンは、前記通路を通る流体の流れを実質的に塞ぐ第 1 の位置から、前記通路を通る流体の流れを許容する第 2 の位置まで移動可能であり、

前記装置は、さらに、前記第 1 の膨張可能なバルーンを支持するためのカテーテルシャフトを備え、

前記カテーテルシャフトは、前記第 1 の膨張可能なバルーンに流体連通する第 1 の内腔と、前記第 2 の膨張可能なバルーンに流体連通する第 2 の内腔と、を備える装置。

【請求項 1 3】

請求項 1 2 に記載の装置であって、

前記第 2 の膨張可能なバルーンは、前記通路を通る流体の流れを実質的に塞ぐ第 1 の位置から、前記通路を通る流体の流れを許容する第 2 の位置まで、前記第 1 の膨張可能なバルーン内をガイドワイヤチューブに沿って移動可能である

装置。

【請求項 1 4】

請求項 1 2 に記載の装置であって、

前記第 1 のバルーンは、該バルーンの単一の断面において複数のセルを備え、

前記第 2 のバルーンは、略球状のバルーンを備える

装置。

【請求項 1 5】

流体の流れを移送するための管において医療処置を実施するのに使用するための装置であって、

第 1 の近位位置から第 2 の遠位位置まで摺動的に移動するように構成された膨張可能なバルーンを有する支持体を備える

装置。

【請求項 1 6】

請求項 1 5 に記載の装置であって、

前記支持体は、前記バルーンに流体を供給するための膨張内腔を有するチューブを備える

装置。

【請求項 1 7】

請求項 1 5 または請求項 1 6 に記載の装置であって、

前記バルーンは、略球状であり、近位ネック部と遠位ネック部とを備える

装置。

【請求項 1 8】

流体の流れを移送するための管において医療処置を実施するのに使用するための装置であって、

略球状の膨張可能な本体と、近位ネック部と、遠位ネック部と、を有するバルーンを備える

装置

【請求項 1 9】

請求項 1 8 に記載の装置であって、

前記近位ネック部および前記遠位ネック部は、略円形の断面を有する

装置

【請求項 2 0】

請求項 1 8 または請求項 1 9 に記載の装置であって、

さらに、前記バルーンを支持するための支持体を備え、

前記支持体は、前記膨張可能な本体に流体連通する膨張内腔を備える

装置。

【請求項 2 1】

請求項 1 8 ないし請求項 2 0 のいずれか一項に記載の装置であって、
さらに、前記バルーンを受け入れるように構成された灌流バルーンを備える装置。

【請求項 2 2】

流体の流れを移送するための管において医療処置を実施するのに使用するための装置であって、

第 1 の膨張可能なバルーンと、
前記第 1 の膨張可能なバルーンを支持し、第 1 の内腔を有するカテーテルシャフトと、
前記第 1 の内腔内に位置決めされるガイドワイヤチューブであって、前記膨張可能なバルーンへ膨張流体を供給するための膨張内腔と、ガイドワイヤを受け入れるためのガイドワイヤ内腔と、を有するガイドワイヤチューブと
を備える装置。

【請求項 2 3】

請求項 2 2 に記載の装置であって、
前記カテーテルチューブは、前記第 1 の膨張可能なバルーンへ膨張流体を供給するための第 2 の内腔を備える装置。

【請求項 2 4】

請求項 2 2 または請求項 2 3 に記載の装置であって、
さらに、前記ガイドワイヤチューブの前記膨張内腔に流体連通する第 2 の膨張可能なバルーンを備える装置。

【請求項 2 5】

請求項 2 2 に記載の装置であって、
前記第 1 の膨張可能なバルーンは、灌流バルーンを備え、
前記第 2 の膨張可能なバルーンは、前記灌流バルーン内に位置決めされる装置。

【請求項 2 6】

請求項 2 5 に記載の装置であって、
前記灌流バルーンは、該バルーンの単一の断面において複数の膨張可能なセルを備え、
各セルは、前記第 1 の内腔に流体連通する近位ネック部を備える装置。

【請求項 2 7】

請求項 2 2 ないし請求項 2 6 のいずれか一項に記載の装置であって、
前記第 1 の膨張可能なバルーンは、略球状のバルーンを備える装置。